

アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業第5回専門委員会 議事録

平成23年2月14日

馬事畜産会館 会議室

社団法人 日本馬事協会 参与 栗本 共明

定刻となりましたので、ただいまから第5回アニマルウェルフェア飼養管理確立推進事業に係る専門委員会を開催いたします。

この会議につきましては、前回11月に開催した後、12月6日に推進委員会を行いました。

その結果を踏まえ、この委員会で専門委員会の最終的な指針としたいと考えておりますので、よろしくご協議願います。

私は本日進行を務めさせていただきます栗本と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、委員12名中10名に出席いただいております。

この委員会は5回目ですので、委員の紹介は省略させていただきます。

また、本日は傍聴者として、社団法人競走馬育成協会副会長の和田隆一氏が参加されております。

それでは、本日お越しいただいておりますご来賓の方よりご挨拶を頂戴したいと思います。

農林水産省畜産振興課菅谷課長補佐よろしくお願いいたします。

農林水産省 畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

農林水産省畜産振興課の菅谷と申します。

この専門委員会は第5回ですが、指針を作成するにあたってこれほど多くの専門家の皆様にお集り頂き、熱心に議論していただき積み上げていくことはそうそうないのではないかと思います。この場をお借りしてお礼申し上げます。

アニマルウェルフェアは今後普及が重要になって参りますが、畜産を巡る情勢で考えると、最近、口蹄疫や鳥インフルエンザが発生している中で、早期発見ということが非常に重要視され注目されております。これは、アニマルウェルフェアの観点から家畜をどう扱い日々観察するということが、家畜の日々の健康状態を把握するという面からも、今後重要になってくると思います。

馬に関しては口蹄疫や鳥インフルエンザにはかかりませんが、アニマルウェルフェアという考え方を農家の方に分かっていたいただき、常日頃から家畜の状態に注意して頂くということが大事だと思っております。本日もご議論をいただきまして、より良いものが出来ればと考えております。よろしくお願いいたします。

社団法人 日本馬事協会 参与 栗本 共明

ありがとうございました。

それでは、座長を選出させていただきます。前回に引き続き北海道大学北方生物圏フィールドセンター近藤教授にお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

この専門部会では、21年8月27日、11月9日、平成22年3月5日、11月9日に開催しており、5回目の開催となります。

先ほど事務局から説明がありましたとおり、今回で専門委員会の案を固めるということになっておりますので、委員の皆様ご協力をお願いいたします。

協議事項（1）アニマルウェルフェアに対応した飼養管理指針（案）の検討につきまして、事務局から説明願います。

社団法人 日本馬事協会 業務部 専門役 山下 大輔

（目次ー第1一般原則まで説明）

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

一般原則ですが、ご質問等ありますでしょうか。

全農畜産サービス株式会社 常務取締役 中塚 眞五

繁殖雌馬と繁殖馬との区別はどのようになっているのでしょうか。

社団法人 日本軽種馬協会 業務部 首席調査役 江口 貞男

繁殖馬というと雄雌両方ですが、繁殖雌馬となると雌馬だけになってしまいます。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

事務局で特に区別がないのであれば、繁殖馬に統一したほうが良いと思いますので統一をお願いします。

その他ありませんでしょうか。

日本中央競馬会馬事部 上席調査役 宮崎 栄喜

今後、指針の内容が公表されることにより質問がくるのではないかと思います。お祭り用の馬や馬車用馬等が、アニマルウェルフェアの対象になるかどうかについては、分かりやすい線引きが重要だと思います

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

指針の対象に関しては、生産者が対象ということで、農場内という言葉を入れてあります。競馬と乗馬クラブで飼養されている馬に関しては別のレギュレーションを持っているので対象外です。

ただ、お祭りや馬車馬等の議論は行っていませんでした。使役馬のウェルフェアは非常に難しいと思います。

農林水産省 畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

本指針は、あくまでも飼養管理指針ですので、農家に取り組んでいただいて、生産性の向上に役立

ていただくことを主目的として作成頂いています。

社団法人 日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

お祭りでもチャグチャグ馬っこのように生産と祭りに同時に供される馬と、神馬のように使われている馬がいます。お祭りに供される馬は、お祭りにだけ使われ、農家で生産目的で飼養されないという事例はむしろ少ないのでは。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

一番最初に、委員会の中でこの話をさせていただいたのですが、以前、上げ馬神事の関係者からお祭りも関係するのかなという質問がありました。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

本指針は、農場で馬を飼養しているものを対象にしているので、その他のものに関しては、動物愛護管理法に従うことになるのではないかと思います。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

私の整理の中では、競馬や乗馬クラブの馬は強い調教を行いますので、5つの自由にそぐわないので、除外されていると理解していました。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

そのとおりです。

ただ、上げ馬神事が問題という話をされた場合、この指針は生産段階までがこの指針で、それから先は動物愛護管理法が適応されるという説明になると思います。

農林水産省 畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

座長のおっしゃる通り、上げ馬神事については、動物愛護保護法で対応ということになりますが、実際にこの指針の中身をしっかり見ていただくと、「いじめる」というようなことが記述されているわけではなく、飼養管理に係るレベルの高い内容が書かれていることから、指針の対象とするのが、農家で飼養されているであることを理解していただけるとと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

その他なければ次の説明をお願いいたします。

社団法人日本馬事協会 業務部 専門役 山下 大輔

(第2馬の飼養管理 1 管理方法について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

今のことにつきましてご質問等ありますでしょうか。

農林水産省 畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

文章がおかしいと感じる部分があります。⑩の2行目は悪臭及び害虫の発生の原因と書いたほうが良いのではないかと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

修正をお願いします。

その他なければ次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部 専門役 山下 大輔

(第2馬の飼養管理 2 栄養について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

今のことにつきましてご質問等ありますでしょうか。

付録のボディコンディショニングスコアの図について、推進委員会から農用馬用のボディコンディショニングスコアはあるのかということをお聞きしております。これについては、昨年度知見を収集した二宮委員に説明をいただきたいと思っております。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂

昨年度科学的知見をまとめた際には農用馬については見つかりませんでした。競走馬については2～3個のボディコンディショニングスコアがありました。そのうちの1つを参考にして付録に掲載している図が作成されていると思われまます。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

農用馬についてはなかったという結論でしたので、サラブレッドのものを使用することになるということでした。

その他ありますでしょうか。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

③の採食時間を長くすることが望ましいと記載されていますが、採食可能な時間に修正したほうが良いのではないのでしょうか。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

採食時間については、長ければ長いほうが良いと思っております。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

1年間放牧していると、採食時間は10～20時間です。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

採食可能と書くと、馬が食べる時間を拘束しているような感覚を持ちます。理想は不断食ですが、人間が管理していると1日2〜3回となってしまいます。理想としてはなるべく長くちょっとずつ給餌していくことです。そうすれば、胃潰瘍等を防ぐことができますので、このままで良いと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

その他ありますでしょうか。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

②ですが、「また」や「さらに」が多いので、削除して見やすい文にしたらどうでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

全て外しても問題はないと思いますので、修正をお願いします。

上川生産農業協同組合連合会 畜産部長 鈴木 昇

採食時間を長くするよりは、回数を分けたほうが良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

「給餌回数を増加する等」とあるので、そのことについては記述されているのではないかと思います。

それでは次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部 専門役 山下 大輔

(第2馬の飼養管理 3飼養管理について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

今のことににつきましてご質問等ありますでしょうか。

推進委員会から宿題になっておりました飼養スペースについて、昨年度科学的知見を収集された二宮委員に説明をしていただきたいと思います。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂

科学的知見で取りまとめた際には、飼養スペースについての文献が見つかりませんでした。研究レベルにおいても、馬のものはあまり調べられていません。その理由は、豚やニワトリは面積あたりでどれだけ生産性を上げるかが研究されてきた一方で、馬に関しては、飼われる目的が違いますので、データとして残っていないのが現状です。

アニマルウェルフェアに対応するという意味では、馬自身がどのように感じるかが一番の問題で、狭くても馬が苦痛に感じなければ良いという考え方も出来ます。つまり、スペースについては、ここ

に記載されているとおり、飼養者や管理者が馬をよく観察し、横臥や起立が出来ているか、スペースは十分であるかを判断するということが重要なことだと考えます。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

一般的な農場で管理されている馬に関しての、文献はないということでした。

輸送に関してはあったと思いますが。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂

ありました。

放牧地の広さに関しては、研究等がありましたが、詳細な言及はありませんでした。

家畜改良センター十勝牧場 業務第二課長 岡 明男

海外のウェルフェアでは広さが記載されていたと思いますが。

東北大学大学院 農学研究科農学部 准教授 二宮 茂

記載されているものもありますが、経験的な数値が掲載競れており、根拠となる科学的データ等がないので、そういう数値を載せるのが適当かどうかわかりません。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

スウェーデンのものに関しては記載がありますが、科学的根拠がないので記載は難しいと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

他の畜種に関しては、数値は出ているのでしょうか。

農林水産省 畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

ヨーロッパの基準に用いられている係数を使って、体重毎にアロメトリー式による必要最小面積を参考として掲載していますが、本当に必要最小限の広さですので、参考であっても、馬で記載するのは適当ではないと思います。飼養スペースについては、二宮先生もおっしゃったとおりだと思うのですが、ちゃんと馬を見て判断することが重要ではないかと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

今後そのような議論はあると思いますが、馬については科学的根拠のある数値は無いということで、今回は入れないほうが良いと思います。

その他ありますでしょうか。

社団法人 日本軽種馬協会 業務部 首席調査役 江口 貞男

③に有害動物の「侵入の抑制」と「侵入の防止」と2つありますが、統一したほうが良いのではないのでしょうか。

社団法人日本馬事協会 業務部 専門役 山下 大輔

推進委員会で防止するのは無理だというご意見がありましたので、両方とも抑制に修正したつもりでしたが、失念しておりました。修正します。

全農畜産サービス株式会社 常務取締役 中塚 眞五

蚊やハエは昆虫ですので、動物ではないのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

これは、植物に対する動物という意味で使っているのです、このままでよいのではないのでしょうか。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

「厩舎及び牧柵の破損箇所による怪我の発生等が生じない構造とする。」とあります。しかし、11ページの構造の部分では、怪我の原因となる突起物がないように配慮するとなっています。構造は作る前に考慮して作らないといけないので、そこがかけているのではないかと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

10 ページの記述は、「構造」を「留意」として、「厩舎及び牧柵の破損箇所による怪我の発生等が生じないよう留意する」が良いと思います。

11 ページは建設時の話なので、このままで良いと思います。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

飼養方式のところですが、舎飼方式と放牧方式と2つに分かれています。この中ではパドックに放牧することも放牧方式に入っていると思います。この使い方がパドックは放し飼いという考え方で、海外の考え方と違って来るのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

アの方は、厩舎の中で給餌等の飼養管理を行う方式、イの方は、草地等で直接採食させる方法なので、統一はとれていると思います。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

草地等にはパドックも含まれるのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

パドックは入っていません。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

そうするとパドックでの放し飼いというもう一つ方式が必要なのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

そうなるとう舎飼の多頭方式になるのではないのでしょうか。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

後の厩舎の説明部分を見ると、風雨、暑熱、寒冷等を防いでと記載されているので、シェルターだけでは厩舎に入らないのではないかと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

厩舎は、馬房が並んでいるという定義はされていません。

厳密に言うと屋根付きパドックはアの舎飼方式に入るのではなかったでしょうか。

構造では断熱までは入っていないので、寒冷等を防ぐだけであれば簡易的なものでも十分だと思います。

社団法人 日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

パドックのイメージは、厩舎に付属しているかもしくはその一部で舎飼が原則ではないかと思いません。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

英語でパドックやペンと記述した場合、アメリカとイギリスでは意味が全く違います。屋外運動場はパドック、ペンは屋外では使いませんが、イギリスでは屋外でもペンです。

社団法人 日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

放牧地やパドックと記載してあるので、厩舎と併設を意識して作られているのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

松井委員いかがでしょうか。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

舎飼方式と放牧方式が並ぶことがちょっと違うのではないかと思います。

放牧の方式にグレージングとペンで放牧する方法があるので、舎飼方式と放牧方式が並ぶのはイメージが浮かびません。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

下にアとイの組み合わせというニュアンスが一番近いかもしれません。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

放牧方式にグレージングと餌がおかれていない放牧があると思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

厳密に言うと放し飼いの中に放牧とドライブ等があります。

社団法人 日本馬事協会 参与 栗本 共明

パドックの場合、日本では舎飼方式に付随するものとなると、舎飼方式の中に屋根付きパドックでの放牧が入るのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

厩舎の部分をどうするかが問題です。

放牧地でない運動場で、外のパドックで雨風にさらされている状況はあり得るのでしょうか。放牧地であればあり得ますが。

家畜改良センター十勝牧場 業務第二課長 岡 明男

運動場でも乾草を置いておけばパドックになると思います。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

舎飼で人間が刈ってきた草を与えるのか、自然に生えている草を食べるのかの違いではないでしょうか。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

柏村委員が言われるように、3つあるのかもしれませんが。舎飼とグレージング方式の放牧、パドックでの放牧です。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

3つめがアの中に入っているのではないかと思います。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

厩舎から離れた場所で囲って乾草を入れたら舎飼と同じではないかと思いますが、雨風を防げる訳ではありません。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

屋根のない飼い方をするパドックはあるのでしょうか。

普通は放牧か群飼ではないかと思います。

直射日光や風雨から守れるのであれば、厩舎という言葉を除いてしまってもいいのでしょうか。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

雪の上で馬を放牧するとそれはどのような扱いになるのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

運動なのでグレージングとは言いません。

雪の下に草があって食べることを期待しているのであればグレージングです。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

しかし、日高では1日22時間の放牧を行っています。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

それでは、厩舎及びパドックで給餌等を行いという書き方で良いでしょうか。

この部分の「また」や「または」は、工夫して消す等をしていただければと思います。

その他ご質問ないでしょうか。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

放牧方式についてですが、きめ細やかな管理とは個体管理のことでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

後の管理は前にかかっているのではないかと思います。

社団法人日本馬事協会 業務部 専門役 山下 大輔

推進委員会で指摘があったのは、観察をしようと思えばどのような場所でも行えるが管理は出来ないということでしたので、外させていただきました。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

その書き方ですが、「飼料の摂取量等についてのきめ細やかな管理が困難である。」とすれば良いのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

それでは次の説明をお願いします。

社団法人日本馬事協会 業務部 専門役 山下 大輔

(第2馬の飼養管理 4厩舎の環境について説明)

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

今のことにつきましてご質問等ありますでしょうか。

帯広畜産大学 教授 柏村 文郎

馬着について記載されていないのですが、記載はいらないのでしょうか。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉

繁殖では着せることはあまりないです。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

私どもの牧場でもほとんど着せません。

生まれたばかりの子馬を初めて外に出す場合は着せる場合がありますが。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉

このままの方が良いと思います。

日本中央競馬会馬事部 上席調査役 宮崎 栄喜

照明の部分ですが、ライトコントロールが現在行われていますので、ライトコントロールについての記述は入れなくて良いのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

照明を夜中つけっぱなしにするなど、極端なのは好ましくないということでの記述です。

北海道農業共済組合連合会 技術総括 三木 渉

ライトコントロールについては、昼間が15時間、夜間が9時間とされているので、それ以上の長時間の照明をすることはないと思います。

家畜改良センター十勝牧場 業務第二課長 岡 明男

ただ、お産する時に照明が必要になってきますが、その場合は照明を長くつけていることもあります。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

不要で無計画な長時間の点灯はやめましょうという意味なので、「不要で無計画な長時間の点灯」という記述にすれば良いのではないのでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

いかがでしょうか。

日本中央競馬会馬事部 上席調査役 宮崎 栄喜

ここに入っていることは、逆に光をつけることで害が生じるということなのではないのでしょうか。問題になっている事例があるということなのではないのでしょうか。

日本中央競馬会 競走馬総合研究所 研究役 松井 朗

人は体内時計が狂うと不眠症になったりするので、馬もストレスがかかるのでアニマルウェルフェア上よくないということではないでしょうか。現状で問題になっているというはっきりとしたデータはありませんが。

日本中央競馬会馬事部 上席調査役 宮崎 栄喜

最近の馬術の国際大会では、関係者であっても決められた時間外での夜間の厩舎の出入りは禁止されています。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

ただ、他畜種でも照明時間については、アニマルウェルフェアに関して海外でもよく議論されています。ここでは、分娩時などの照明が必要な時は除いて、照明が必要でない時に、夜間に極端に照明時間を長くするなどには良くないということを言っているということだと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

夜間の極端な部分という言葉に全てがはいっているということで、このままでよろしいでしょうか。

全農畜産サービス株式会社 常務取締役 中塚 眞五

言葉だけですが、「努めることとする」という表現ですが、「こととする」という表現は削除して、「努める」にした方が見やすくなるのではないかと思います。文章全体を通してそうしていただければと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

そのように修正していただきたいと思います。

その他ご質問等ありますでしょうか。

農林水産省生産局畜産部畜産振興課 課長補佐 菅谷 公平

舎飼方式にパドックを入れた場合ですが、舎飼方式の特徴に「馬の行動が制約される」ということばが入っているのですが、これは、問題ないでしょうか。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

パドックの面積によるとは思いますが、大きい屋根を張ることは無理なのでこのままで良いと思います。

日本中央競馬会馬事部 上席調査役 宮崎 栄喜

6 ページの歯の部分ですが、エサを食べない理由は歯刷りを行うことと記述されていますが、実際は歯刷りだけではなく、歯の病気等も考えられ、歯擦り以外の対応についても行わないと行けないと思いますので、この部分の記述を検討していただきたいと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

「歯刷牙を行うこととする」を「必要に応じて獣医師等と相談し適切な処置を行うことが必要である。」とする方が適当ですので、そのように修正いただければと思います。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター教授 近藤 誠司

その他ありますでしょうか。

なければ進行を事務局にお返しします。

社団法人 日本馬事協会 参与 栗本 共明

座長ありがとうございました。

今回議論いただいたことにつきましては、事務局で修正を行った後、委員の皆様へご確認をお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、2年間という長期間、委員の皆様方につきましては、大変お忙しい中、当委員会に参加いただきまして、ありがとうございました。

今後とも皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

最後に当協会の倉澤よりご挨拶を申し上げます。

社団法人 日本馬事協会 専務理事 倉澤 景晴

2年間及び5回に渡りまして、農林水産省及び環境省の方及び近藤先生には推進委員会及び専門委員会並びに科学的知見専門部会では大変お世話になりました。また、委員の方には各委員会で大変お世話になりました。次年度は、現地の勉強会や普及のためのセミナーが予定されております。また、ご協力いただくことがあると思いますので、その際はご協力を賜りますようお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

社団法人 日本馬事協会 参与 栗本 共明

それでは専門委員会を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。